

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

山ん学校雪山登山

永田小学校 六年 八木 康介

あれ、雪がないな。山ん学校の雪山登山
 に来た僕は、山のぼりのスタート地点でそう
 言った。すると先生たちにも、と上にのぼれ
 ば雪があると教えられ、僕はみんまで山をの
 ぼりはじめた。十分ぐらい経つと、少しあら
 れのような物がふつてきた。あられば冷たく
 あたると痛かった。その十分後みんな暑く
 上ぎをぬき、また山をのぼって少しすすむと雨
 がふり雨が雪に変わった。休けい地点でも雪を
 ぶつけたりして遊んだ。初めのうちは果しか
 ったがどんどん足と手のかんかくなくな
 ってしるたに、早くつかないかなと思
 いだした。せばらふすと道路に当たり、さ
 に来ていた人たちのこえがきこえてきた。思
 いで作り食べた温ったかいカツラーメンは
 おいしか。たがそれでもまださむくてほっか
 いろをつけ、上ぎぬな杖もまたそれでもま
 たく温くない。その時雪がぜんをしよう

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

言われ白谷たにの山道を少しいった所で雪がつせ
 んをした。先生や友達と雪をぶつけあった。
 よけたリキカッチしたり敵にぶつけたりして
 楽しかった。当たられた時は、冷たく先生に当
 てられた時は、痛いたかった。気づいた時は、も
 うままったく寒ひやくなくなり暑あつくななって上あぎをぬ
 いた。帰りも僕は、ももっと雪がつせんがしたく
 て友達たろと雪をぶつけたりした。雪は、下に
 行くにつれなくなな。ていくそれで雪をよみわ
 げとして下までももていくことにした。少し
 たつとあられが雨になり雪は、完全になくな
 った。それにうれ僕の雪もとけはじめいそいで下
 にむかかった。車はなかなかむかえになかなった。
 けが来てくれた時には、車くるまって速はやくて、ある
 かなくていいしな。てすばらしい物ものなんだ。
 と思おもって感激きんきしてああままというままによかん
 に来たそこでみんなとこうかんしてあかあしを
 食べああさんたさがるのをままった。僕の
 お母おさんは、ああのちんくるかななとよよそ
 うしていたのにいがいに速はやめにきてくれくれよよ

(不許複製)

20×20

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

そうがんだった。終

(月 日 曜日)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

